

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月14日
【四半期会計期間】	第91期第3四半期（自平成25年10月1日至平成25年12月31日）
【会社名】	小池酸素工業株式会社
【英訳名】	KOIKE SANSO KOGYO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横田 修
【本店の所在の場所】	東京都江戸川区西小岩三丁目3番16号 (同所は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)
【電話番号】	03(3624)3111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 岡崎 隆
【最寄りの連絡場所】	東京都墨田区太平三丁目4番8号
【電話番号】	03(3624)3111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 岡崎 隆
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 小池酸素工業株式会社 城北支店 (埼玉県川口市領家三丁目10番19号) 小池酸素工業株式会社 千葉支店 (千葉県市原市八幡海岸通47番地) 小池酸素工業株式会社 京浜支店 (神奈川県川崎市川崎区宮本町8番地15) 小池酸素工業株式会社 名古屋支店 (愛知県名古屋市瑞穂区牛巻町12番地9) 小池酸素工業株式会社 大阪支店 (大阪府大阪市城東区中央二丁目4番15号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第90期 第3四半期連結 累計期間	第91期 第3四半期連結 累計期間	第90期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	29,329	28,259	41,100
経常利益(百万円)	796	511	1,402
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失( )(百万円)	573	300	1,020
四半期包括利益又は包括利益(百万円)	525	792	2,004
純資産額(百万円)	23,259	25,209	24,704
総資産額(百万円)	46,459	49,207	49,355
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額( )(円)	13.77	7.26	24.52
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	46.95	47.84	46.94

回次	第90期 第3四半期連結 会計期間	第91期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	5.31	4.12

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第90期第3四半期連結累計期間及び第90期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第91期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

## 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

## 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、新興国経済の成長鈍化はありましたが、欧州で回復の兆しが見られたことや米国経済が回復基調を維持したことにより、緩やかな回復の動きが見られました。

一方、わが国経済は、政府の経済政策を背景に雇用情勢や企業収益の改善、個人消費の持ち直しが見られ、さらには東京五輪の開催決定に伴う景況感の好転により、景気は緩やかに回復しております。

当社グループの主要需要先である鉄鋼、造船、産業機械、建設機械などの各業界においては、受注環境に回復が見られたものの、労働力不足、資材不足による建設工事の遅れや、造船の手持ち工事量が低水準で推移したことなどの影響を受けて依然として厳しい状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループは世界市場に向けた新技術・新製品の開発と販売力強化、生産効率の向上、原価低減や経費削減に取り組みましたが、海外部門の不振などからその効果は限定的なものとなりました。また、減損損失3億4百万円を特別損失に計上したことから、四半期純利益は減少しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は282億59百万円（前年同期比3.6%減）、経常利益は5億11百万円（同35.8%減）、四半期純損失は3億円（前年同期は四半期純利益5億73百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### **機械装置**

機械装置部門においては、9月に開催のプライベート・フェアに展示した最新鋭の「ファイバーレーザー切断機」、残材の有効活用により歩留り向上を図ることができる「パッケージナビゲーションシステム」、新型プラズマ装置「SUPER-400 PRO」などの全国巡回販売を行いました。また、ポータブルCNC切断機「PNC-10」、「PNC-12」の専用実演車による実演展示販売活動を継続しましたが、厳しい受注環境の中、販売量は伸び悩みました。

海外においては、中国・ドイツ・米国・タイ・インドネシアなどの展示会に、各マーケットのニーズに合った新製品、新型低価格の門型・簡易NC切断機などを出展し、多くの引合い、受注を得ることができました。また、韓国新工場のお披露目を兼ねたプライベート・フェアを11月に開催し、各種新製品に加え、「ファイバーレーザー切断機」の出展・紹介を行い、多くの引合いを得ることができました。

生産面においては、新型プラズマ装置「SUPER-400 PRO」を搭載した切断機の生産を開始しました。さらに、「ファイバーレーザー切断機」の韓国新工場への技術移管を行い、韓国で販売を開始しました。

しかしながら、設備投資の意欲が上がらない中、競合他社との熾烈な価格競争が続いており、生産面での原価低減にも取り組みましたが、大きな成果をあげることはできませんでした。

その結果、売上高は115億30百万円（前年同期比9.8%減）、セグメント利益は1億11百万円（同68.3%減）となりました。

#### **高压ガス**

工業用ガスにおいては、酸素・窒素などのセパレートガスをはじめとした主要ガスの販売量は、国内製造業の生産活動に需要回復の兆しが見えているものの、本格的な回復には至っておらず、前年並みに推移しました。

このような状況のもと、セパレートガスに関しては、電気料金の値上げにより製造コストの上昇が続いたため、一部地域を除いてガス価格の改定に注力するとともに、アセチレン原材料であるカーバイトの値上げを受けてアセチレンの価格改定を実施しましたが、収益改善につなげることはできませんでした。また、新たな取組として、水素ベース混合ガス「スーパーカットH」および機器として水素混合器「スーパーミキシングH」の製造・販売を開始しました。

生産面においては、保安の確保・安定供給を第一に考え、コスト削減の実施に努めるとともに、「容器管理システム」の更新および老朽化容器の更新を行いました。また、国内炭酸ガスプラントの減少を受け、輸入ドライアイスの販売を開始しました。

医療分野においては、11月に開催されたHOSPEX Japan2013(医療福祉設備展)に新型「クロモフェアF」(LED無影灯)を出展し、高評価を受け、更新需要を中心に積極的な営業展開を図り、売上が増加しました。また、酸素濃縮器レンタルのサービス部門の強化、品質向上により契約件数が増加し、順調に推移しました。さらに、睡眠医療の検査関連の営業強化により「ジャスミン(睡眠時無呼吸症候群治療装置)」の契約件数が増加しました。

その結果、売上高は111億91百万円（前年同期比2.9%増）、セグメント利益は7億66百万円（同2.2%減）となりました。

#### **溶接機材**

溶接機材部門においては、物流倉庫、商業施設の案件や耐震補強工事案件が堅調に推移したことや大型高層ビル案件の本格的着工に伴い、溶接材料の主要需要先である建築・鉄骨向けの販売量が増加しました。また、販売強化を図るため、新潟に流通拠点を設置し、営業活動を開始しました。

溶接機器においては、5月から9月までグランド95キャンペーンパートを実施し、溶接機、乾式安全器などの拡販を行うとともに、北関東支店、城北支店にてこいけ市を開催し、溶接などの実演を行い、溶接機、安全保護

具、切断関連商品の拡販を図りました。また、9月にプライベート・フェアを開催し、サブマージアーク溶接機の展示実演を行うとともに、市場調査を目的として、GREEN ROAD JAPAN 2013に小型溶接機、マグネット工具、金属補修剤などを出展しました。さらに、10月には金属補修剤の拡販のため、ものづくりNEXT2013に出展し、新規販売ルートの開拓につなげることができました。

その結果、売上高は52億42百万円（前年同期比2.0%増）、セグメント利益は1億9百万円（同22.5%増）となりました。

**その他**

ガス機器においては、大型ヘリウム液化機を大学研究機関から1台受注しました。排ガス処理装置に関しては、国内において半導体・液晶メーカーの統廃合が進められている中、市場要求に合わせた新型排ガス処理装置の開発を行い、引合い・受注が増加しました。また、中国においては、5月に上海で開催された国際太陽光展示会に出展しましたが、設備投資の低迷が続き、受注台数を伸ばすことができず、成果をあげることはできませんでした。

その結果、売上高は2億94百万円（前年同期比44.4%減）、セグメント損失は9百万円（前年同期はセグメント損失33百万円）となりました。

**(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題**

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

**(3) 研究開発活動**

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、2億94百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

**(4) 主要な設備**

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設について完了したものは、次のとおりであります。

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	完了年月
コイケ코리아・エンジニアリング(株)	韓国・慶尚北道	機械装置	生産設備 事務所棟	平成25年7月

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	179,100,000
計	179,100,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	45,229,332	45,229,332	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	45,229,332	45,229,332		

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		45,229,332		4,028		2,366

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

##### (7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,308,000	-	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 40,573,000	40,573	同上
単元未満株式	普通株式 348,332	-	-
発行済株式総数	45,229,332	-	-
総株主の議決権	-	40,573	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が54,000株(議決権の数54個)含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
中国アセチレン株式会社	山口県宇部市大字東 須恵3903番地の3	401,000	64,000	465,000	1.03
株式会社エイ・エム・シー	東京都足立区入谷七 丁目11番12号	20,000	-	20,000	0.04
ケーエム酸素株式会社	茨城県つくばみらい 市伊奈東33番9号	8,000	-	8,000	0.02
大阪液酸株式会社	大阪府大阪市生野区 巽南三丁目2番10号	1,000	-	1,000	0.00
小池酸素工業株式会社	東京都墨田区太平三 丁目4番8号	3,814,000	-	3,814,000	8.43
計	-	4,244,000	64,000	4,308,000	9.52

(注)他人名義として所有している株式は、取引先による持株会「小池酸素工業取引先持株会」(東京都墨田区太平三丁目4番8号)名義のうち、相互保有株式の持株残高を記載しております。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
常務取締役	営業部長	常務取締役		小池 正孝	平成25年9月1日
取締役		取締役	営業部長兼溶材 商品部長	大久保 義孝	平成25年9月1日
取締役	東京支店長、溶材 商品部長兼東日本 グループ長	取締役	東京支店長兼東 日本グループ長	小池 康洋	平成25年9月1日

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東光監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,615	7,396
受取手形及び売掛金	<sup>3</sup> 12,271	<sup>3</sup> 11,095
商品及び製品	4,447	5,037
仕掛品	1,515	1,919
原材料及び貯蔵品	1,788	1,931
その他	957	1,287
貸倒引当金	227	201
流動資産合計	29,369	28,467
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,721	3,815
機械装置及び運搬具(純額)	1,355	1,405
工具、器具及び備品(純額)	530	465
土地	9,132	9,116
リース資産(純額)	654	807
建設仮勘定	244	682
有形固定資産合計	15,638	16,293
無形固定資産		
のれん	360	32
リース資産	13	8
その他	156	161
無形固定資産合計	531	202
投資その他の資産	<sup>2</sup> 3,816	<sup>2</sup> 4,244
固定資産合計	19,985	20,739
資産合計	49,355	49,207

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	<sup>3</sup> 9,625	<sup>3</sup> 9,375
短期借入金	4,036	3,287
1年内返済予定の長期借入金	952	1,058
1年内償還予定の社債	140	40
未払法人税等	366	82
賞与引当金	499	201
役員賞与引当金	64	27
製品保証引当金	23	20
その他	2,577	2,923
流動負債合計	18,286	17,017
<b>固定負債</b>		
社債	100	80
長期借入金	1,714	2,158
退職給付引当金	262	234
役員退職慰労引当金	231	222
資産除去債務	13	14
その他	4,042	4,271
固定負債合計	6,364	6,981
負債合計	24,650	23,998
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	4,028	4,028
資本剰余金	2,357	2,357
利益剰余金	16,882	16,333
自己株式	909	913
株主資本合計	22,359	21,805
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	587	821
土地再評価差額金	1,233	1,233
為替換算調整勘定	1,012	318
その他の包括利益累計額合計	808	1,735
少数株主持分	1,536	1,667
純資産合計	24,704	25,209
負債純資産合計	49,355	49,207

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	29,329	28,259
売上原価	21,908	20,820
売上総利益	7,420	7,439
販売費及び一般管理費	6,771	7,092
営業利益	649	346
営業外収益		
受取利息	20	16
受取配当金	57	59
受取賃貸料	66	64
物品売却益	21	20
為替差益	85	150
貸倒引当金戻入額	20	9
その他	33	67
営業外収益合計	306	388
営業外費用		
支払利息	75	107
賃貸費用	35	42
その他	47	74
営業外費用合計	158	223
経常利益	796	511
特別利益		
固定資産売却益	669	43
投資有価証券売却益	5	35
その他	-	1
特別利益合計	675	81
特別損失		
固定資産除売却損	10	16
投資有価証券評価損	33	-
減損損失	57	304
その他	0	5
特別損失合計	102	326
税金等調整前四半期純利益	1,369	265
法人税、住民税及び事業税	508	231
法人税等調整額	199	243
法人税等合計	707	475
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )	661	209
少数株主利益	88	90
四半期純利益又は四半期純損失( )	573	300

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	661	209
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25	241
為替換算調整勘定	111	761
その他の包括利益合計	136	1,002
四半期包括利益	525	792
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	435	626
少数株主に係る四半期包括利益	89	165

【注記事項】

( 四半期連結貸借対照表関係 )

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
新洋酸素(株)	39百万円	新洋酸素(株)	24百万円
小池高压ガス(協)	130	小池高压ガス(協)	134
川口総合ガスセンター(株)	31	川口総合ガスセンター(株)	20
(株)市川総合ガスセンター	16	(株)市川総合ガスセンター	13
計	217	計	192

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
投資その他の資産	139百万円	149百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	268百万円	359百万円
支払手形	2	2

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	839百万円	940百万円
のれんの償却額	53	46

( 株主資本等関係 )

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	293	7.0	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	248	6.0	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機械装置	高圧ガス	溶接機材	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	12,783	10,878	5,138	28,799	529	29,329	-	29,329
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	12,783	10,878	5,138	28,799	529	29,329	-	29,329
セグメント利益 又は損失( )	353	784	89	1,227	33	1,194	544	649

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃焼式排ガス処理装置、ヘリウム液化機、加熱プラズマ機器の製造・仕入・販売業が含まれております。

2 セグメント利益の調整額 544百万円には、セグメント間取引消去101百万円、のれんの償却額 53百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 693百万円、棚卸資産の調整額27百万円、その他の調整額73百万円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機械装置	高圧ガス	溶接機材	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	11,530	11,191	5,242	27,964	294	28,259	-	28,259
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	11,530	11,191	5,242	27,964	294	28,259	-	28,259
セグメント利益 又は損失( )	111	766	109	988	9	978	632	346

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃焼式排ガス処理装置、ヘリウム液化機、加熱プラズマ機器の製造・仕入・販売業が含まれております。

2 セグメント利益の調整額 632百万円には、セグメント間取引消去114百万円、のれんの償却額 50百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 712百万円、棚卸資産の調整額7百万円、その他の調整額9百万円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )	13円77銭	7円26銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( ) (百万円)	573	300
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )(百万円)	573	300
普通株式の期中平均株式数(千株)	41,651	41,417

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月10日

小池酸素工業株式会社

取締役会 御中

東光監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 昌也 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 外山 卓夫 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 中川 治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている小池酸素工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、小池酸素工業株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。